社会医療法人 近森会　院内広報誌

一歩先の医療、一つ先の未来。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP

ひろっぱ

Vol.470　2025.9

雨にも負けず燦燦と！よさこいチーム「ちかもり」

表紙の写真

〈入江理事長プロジェクト〉

PHSからスマートフォンへ ～医療現場の未来を拓く挑戦～

ナースまつり2025『日本一働きやすい病院アワード』本選出場！

近森サマーフェス

入江理事長の Project プロジェクト

近森会の今後の新しいプロジェクトについて、順次ひろっぱでお知らせします。

社会医療法人近森会 理事長
入江 博之 いりえ ひろゆき

プロジェクト 9

PHSからスマートフォンへ ～医療現場の未来を拓く挑戦～

長年、連絡手段として活躍してきたPHS（簡易型携帯電話）が、その役割を終えようとしています。通信インフラの変化に伴いサービス提供の終了が迫る中、全国の医療機関でスマートフォンの導入検討が加速しており、当院でも来るべき時代を見据え、この春からスマートフォンのトライアルを開始しました。

トライアルの現状と「現場の声」の重要性

現在、試験運用は本館5階B・C病棟、救急外来（ER）の3箇所で、トライアルメーカー3社の端末を段階的に用いて実施しています。このトライアルの最大の目的は、「現場の声を聞くこと」にあります。実際に使用するスタッフからのフィードバックは、今後の正式導入に向けた非常に貴重な判断材料となります。単なるPHSの置き換えではなく、医療現場の業務全体をより良く変えていく可能性を秘めたツールとして、私たちはスマートフォンに大きな期待を寄せています。

スマートフォンがもたらす医療現場の変革

スマートフォンの導入は、医療現場に多岐にわたるメリットをもたらします。

メリット 1

音声入力による記録支援

忙しい医療従事者にとって、話しかけるだけで記録ができる音声入力は大きな助けとなります。移動中や処置の合間でもリアルタイムに情報を残せるため、記録の遅れや転記ミスを減らし、より正確でタイムリーな情報共有を実現します。これは、看護記録や医師の指示入力など、多忙な業務の中で発生しがちな煩雑な作業を大幅に効率化し、スタッフの負担を軽減するだけでなく、医療安全の向上にも寄与すると期待されています。

メリット 2

スタッフ間のチャット機能

急ぎの連絡や確認事項を、相手の都合にかかわらず伝えられるチャット機能は、チーム医療を支える多職種間の連携において非常に有効です。特に夜間や休憩中など、互いのタイミングがずれがちな時間帯でも、必要な情報がスムーズに伝達されます。これにより、医師、看護師、薬剤師、理学療法士など、多岐にわたる職種間での連携が強化され、患者さんへの一貫したケア提供を支援します。緊急性の高い情報伝達はもちろんのこと、日々の申し送りや情報共有が格段にスムーズになるでしょう。

メリット 3

情報の即時アクセス

患者さんのベッドサイドで電子カルテを確認したり、検査画像を参照したりと、スマートフォンがあればわざわざナースステーションに戻る必要がありません。これにより、患者さんと接する時間が増え、より丁寧な対応が可能となります。例えば、患者さんからの質問にその場で即座に答えられたり、最新の検査結果を見ながら説明したりすることで、患者さんとの信頼関係をより深く構築できます。また、必要な情報にいつでもどこでもアクセスできる環境は、医療判断の迅速化にも繋がります。

メリット 4

カメラ機能による情報共有

患部の状態や処置の様子をカメラで記録し、他の医師や看護師と共有することは、視覚的な情報として非常に有用です。口頭

や文章だけでは伝わりづらい情報を、より正確に共有する助けとなります。例えば、皮膚トラブルや褥瘡の変化、手術部位の状態などを写真で記録し、経過を追うことで、治療効果の評価や今後の治療方針の決定に役立てることができます。これは、カンファレンスでの情報共有をより具体的にし、質の高い医療判断をサポートするでしょう。

安全性と利便性の両立へ

もちろん、新しい機器の導入には慎重な姿勢も不可欠です。セキュリティの確保、操作性の統一、そして何よりも「現場で本当に役立つかどうか」の見極めが求められます。特に医療情報を扱う上でのセキュリティ対策は最重要課題であり、情報漏洩のリスクを徹底的に排除するための対策を講じる必要があります。また、多くのスタッフがスムーズに操作できるよう、統一された操作性や分かりやすいインターフェースの確立も欠かせません。私たちは今後も現場のフィードバックを重ねながら、安全性と利便性の両立を目指して検討を続けてまいります。

PHSからスマートフォンへ。この移行は単なる通信手段の変更に留まらず、医療現場の働き方そのものを見直す契機となるはずです。私たちはこれを、より良い医療の未来へ向けた第一歩と捉え、慎重かつ前向きに取り組んでいきたいと思います。このプロジェクトを通じて、近森病院がより質の高い医療を提供し、患者さん、そして地域社会に貢献できるよう、全職員で力を合わせてまいります。

学会発表

CSI Frankfurt 2025

〈2025年6月18～21日／ドイツ・フランクフルト〉

近森病院 循環器内科 科長 菅根 裕紀 すがね ひろき

演題 Concomitant percutaneous left atrium appendage closure against significantly edematous left atrium appendage following pulsed field ablation for atrial tachycardia originating from Left Atrium Appendage
（左心耳由来の不整脈に対して、経皮的左心耳閉鎖と不整脈治療を同時に行なった1例）

世界とつながる舞台での発表

6月18日から21日まで、ヨーロッパを中心とした世界規模の低侵襲心臓カテーテル治療学会であるCSI Frankfurtに参加し、発表をしてきました。優秀演題賞をいただいたので、論文化しようと思っています。

ドイツ留学 ～世界標準レベルを高知で～

さて、私事ですが、最先端の治療を学ぶために9月からドイツに留学することになりました。2019年に国立循環器病研究センターから戻ってきてから、大動脈弁のカテーテル治療は術者として約200件、僧帽弁のカテーテル治療と経皮的左心耳閉鎖術は責任者としてそれぞれ約100件と約200件と、数多くの経験を積ませていただきました。

安定した手技方法の確立にチームとして取り組んだ結果、上記いずれの治療の成績も日本のどの施設と比べても遜色は無くなったと思っています。一方、さらに上のレベル、“世界標準レベルの治療を提供する”（当院の循環器内科のモットーの一つになります）ためには、現時点における世界レベルの治療をちゃんと経験する必要があると思うのです。

Auf Wiedersehen!

川から海に下りた魚は、まるで別種類の魚になったかのように成長して帰ってきます。環境変化に対する適応こそが、本物の成長を生むのです。ドイツでの新しい生活は困難を極めるでしょう、それでも自分は一人の人間として成長したいのです。外来患者さんには多大なるご迷惑をおかけしますが、何卒ご容赦ください。近森に戻ってきた際はどうぞよろしくお願いいたします。Auf Wiedersehen!（またお会いしましょう）

● ドイツ留学中も、現地の様子をひろっぱへご寄稿いただけるとのこと、どうぞお楽しみに!

ナースまつり2025『日本一働きやすい病院アワード』本選出場!

2025年7月16～18日・東京ビッグサイト

近森会 統括看護部長 **岡本 充子** おかもと じゅんこ

2025年7月16日～18日の3日間にわたって開催された「国際モダンホスピタルショウ」において、看護師が自分らしく生き生きと働ける世の中を目指して始まった、看護師による看護師のためのイベント『ナースまつり2025』に参加してきました。

魅力の再発見と発信

今回の参加の主な目的は、『日本一働きやすい病院アワード』の本選に出場することでした。昨年、VHJ職員交流会にて、同アワードに参加された3施設のプレゼンテーションを拝見し、当会でも「自施設の取り組みを見直し、魅力を再発見・発信していきたい」との思いが高まり、参加を決意しました。準備にあたっては、若手看護師2名と経営企画部スタッフの多大な協力を得ながら、プレゼンテーションの構成を練り上げてきました。

▼プレゼンターの看護師、岩川恵三（左）、上岡冬哉（右）がチームを率いた。

予選通過、本選出場!

本選では、どの施設も素晴らしい取り組みと工夫にあふれた発表をされており、大変刺激を受けました。その中でも、当会のプレゼンテーションも決して引けを取らない内容であり、自信を持って「自分たちの魅力を十分に伝えられた」と感じています。当日は、高知の地でも多くの方々が応援し盛り上げてくださり、大きな励みとなりました。

▲院内では看護部長室や食堂にモニターを設置、中継を見ながら皆で応援!

より働きやすい病院づくりの一歩として

惜しくも受賞には至りませんでしたが、得られた学びや気づきは非常に大きく、「より働きやすい病院づくり」に向けて、大きな一歩となりました。ご支援・ご声援をくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

ナースまつりの会場で記念撮影。左より経営企画部 齊藤みのり、筆者、経営企画部 古川立音子、プレゼンター2名。▶

高校生のみなさんへ

医療職のリアルに触れる!

高校生進路発見セミナー in 近森病院

開催日時

11月1日(土)

第一部 9:30～12:00（9:00～受付）

第二部 13:30～16:00（13:00～受付）

※午前と午後の二部制です。お好きな時間帯でお申込ください。

募集締切 10月17日(金)

お申込み・詳細は◀特設サイトから

近森 進路発見

5年半ぶりの開催!

ポリオ検診会 開催報告

2025年6月28日

近森リハビリテーション病院 院長 和田 恵美子
わだ えみこ

（上）前日に行われた研修会。（下）検診会には県外より7名の医師、2名の義肢装具士が参加。

近森リハビリテーション病院で5年半ぶりとなるポリオ検診会を開催しました。ポリオは1960年代に小児を中心に流行した病気ですが、中高年期になってから新たに筋力低下や疲労感、関節の変形などが出現する「ポストポリオ症候群」が知られています。このため、生活の工夫や適切な装具の使用が重要です。

当院では2012年から毎年検診会を行ってきましたが、COVID-19の影響で一時休止していました。今回は全国でポリオ診療に携わる医師や義肢装具士が参加し、17名の患者さんに対し、生活面のアドバイスや装具の調整・提案を行いました。

今回の検診会は、当院の「＋Qualityプロジェクト」の一環として実施しました。

このプロジェクトは、患者さんへの医療の質を高めるだけでなく、スタッフ一人ひとりの専門性と対応力を向上させることを目的としています。

当院スタッフは筋力測定や装具診に参加し、専門家との協働や患者さんとの対話を通して、ポリオおよびポストポリオ症候群についての理解をさらに深めました。来年の開催も予定していますので、お知り合いにポリオの経験者の方がいましたらお声かけください。

第10回
心臓血管ウエットラボ

2025年 11/9（日） 9:00～17:00（予定）

会場／近森病院 管理棟3階 大会議室

申込期間 ～9/30（火）まで

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
尚、当選者は後日ご連絡いたします。

詳細はQRから

テーマ 心臓の解剖と心臓血管治療

実習項目
解剖全般・PCI・心エコー検査
アブレーション・大動脈ステントグラフト
冠動脈バイパス術・人工弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）など

Mobile Training Lab 開催!

最新設備と臨床現場に近いリアルな空間。実際の手術室と同等の設備・環境下でX線を使用した手術トレーニングを体験できます。

職員募集中!

3,000とおりの誇れる仕事

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。

募集職種
- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 診療放射線技師
- 臨床検査技師
- 事務

近森サマーフェス

2025年7月24日／参加者数：149名

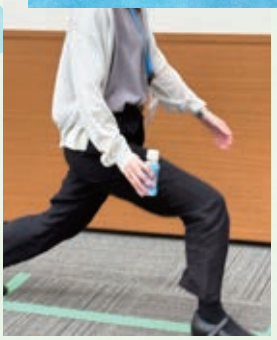
近森病院の複数の委員会が合同で開催！知る・学ぶ・体験するイベント！
スタッフは休憩時間や空き時間で各ブースをスタンプラリーし、
体験を通して学びを深めました。

スマイルプロジェクト

感染対策委員会・リンクナース委員会

手洗い・手袋脱衣チェック

健康管理センター・健康保険組合



立ち上がりテスト（右）＆
2ステップテスト（左）

心リハ

リハビリ（筋トレ）体験

医療安全委員会・認知症ケア委員会

高齢者体験

褥瘡皮膚創傷管理委員会

肌保湿
チェック

災害対策委員会

防災意識確認・
災害トイレ・
災害用物品紹介

緩和ケア委員会

ポスター＆
ハンドマッサージ

栄養委員会

経管栄養試食＆
インボディ

歯科衛生士の創成期に育成に関わられた患者さんとの出会い

近森病院 5階C病棟 歯科衛生士 由井 幸絵 ゆい さちえ

ありがたい言葉

先日、患者さんから、「病院で歯科衛生士が多職種と関わりながら働いているなんて、とても嬉しいわ」とのお言葉をいただきました。その患者さん、岡田渓子氏からお話を伺うと、私の母校でもある高知学園短期大学で教授として教壇に立ち、歯科衛生士の育成に関わられていたとのことで、ありがたい気持ちと共に、知らず弛んでいた背筋が伸びました。

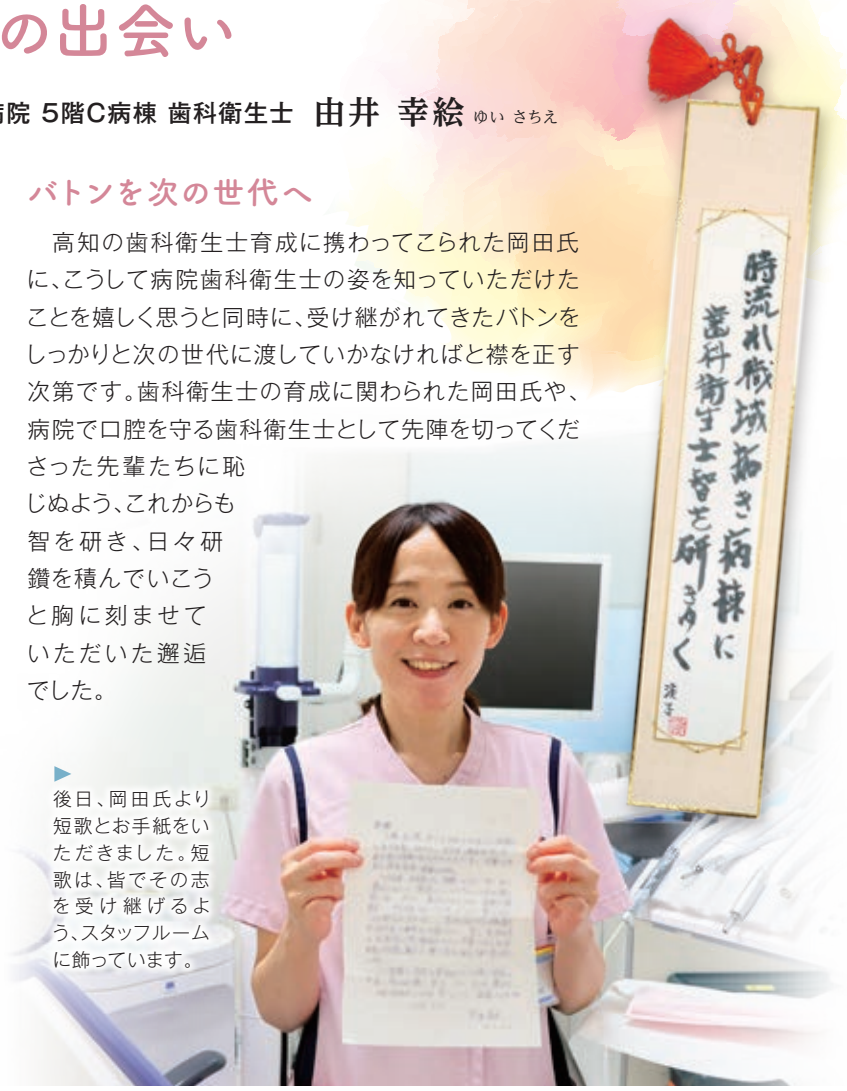
病院の専門多職種の一員として

今でこそ歯科衛生士という職種、予防歯科という言葉は一般の知るところとなりましたが、近森病院に歯科衛生士が配属された当初は『歯医者の助手さん』『歯科は虫歯になったら行くところ』というイメージが強かった時代です。病院で患者さんの病態を学んで口腔ケアに従事する歯科衛生士は全国的にも珍しい存在でした。

そんな頃から近森病院で口腔管理に取り組んでこられた歯科衛生士の先輩方の尽力により、現在では私を含めて10人の歯科衛生士が、周術期口腔機能管理目的の診察補助や、入院中の患者さんへの口腔ケアを含む口腔管理、看護補助等を行っております。

バトンを次の世代へ

高知の歯科衛生士育成に携わってこられた岡田氏に、こうして病院歯科衛生士の姿を知っていただけたことを嬉しく思うと同時に、受け継がれてきたバトンをしっかりと次の世代に渡していかなければと襟を正す次第です。歯科衛生士の育成に関わられた岡田氏や、病院で口腔を守る歯科衛生士として先陣を切ってくださった先輩たちに恥じぬよう、これからも智を研き、日々研鑽を積んでいこうと胸に刻ませていただいた邂逅でした。

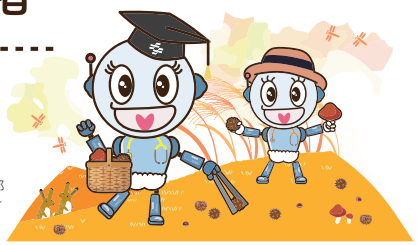


▶ 後日、岡田氏より短歌とお手紙をいただきました。短歌は、皆でその志を受け継げるよう、スタッフルームに飾っています。

すまいる♥ナース通信 ＃認定看護管理者

育つ力を信じ、成長を支援する

近森病院 看護部 看護部長／認定看護管理者 森本 志保 もりもと しほ



近森会グループ看護部マスコットキャラクター モリンちゃん

認定看護管理者として活動を始めて10年が経ち、昨年度には2回目の更新を終えました。

これまでも人材育成に長く携わり、スタッフ一人ひとりの「育つ力」を信じ、成長とやりがいを感じながら働ける環境づくりを大切にしてきました。クリニカルラダーや院内外の研修を通して学びを支え、キャリア面談では看護師それぞれの思いや希望に耳を傾けています。その上で、経験や得意分野を活かせるよう配慮し、成長の機会を広げられるよう努めています。

こうした取り組みを通して、近森病院に来られる患者さんやご家族が「大切にされた」と感じられる看護を提供できる人材を、今後も育て続けたいと考えています。

中央が筆者、両隣は同じく認定看護管理者の工藤副看護部長（左）、齊藤副看護部長（右） ▶

よさこい ちかもり

2025年8月10・11日

※「よさこい ちかもり」の題字は中嶋医師が揮毫しました。

雨にも負けず、燦燦と127名が舞う

チームちかもり 代表／
管理部 経営企画部
部長補佐
楠瀬 達也（くすのせ たつや）

高知の夏の風物詩“よさこい祭り”に、よさこいチーム“ちかもり”は昨年に引き続き、12回目の参加を果たしました。

今年はあいにくの天候でしたが、今年のテーマ「燦燦」のように雨空を吹き飛ばすようなダイナミックでエネルギッシュな演舞を披露することが出来ました。総勢127名の踊り子らには職員だけでなく、看護学生も参加してくれており、更に今年はインドネシアスタッフも参加し、“よさこい”を大いに盛り上げてくれました。

踊り子・ふらふ衆、チームを支えてくれたインストラクターやスタッフ、各競演場・演舞場やテレビ等で応援してくださった方々や職員の皆さん、また間接的に支えてくださった業者や協賛企業の皆様にも大変感謝しております。来年以降も繋げていけることを願っています。

今年のテーマは

燦燦

さんさん

● 踊り子・ふらふ・ヴォーカル・口上・太鼓

（名）

医師（うち研修医6名）	20	言語聴覚士	2	看護学生	18
看護師	18	作業療法士	9	関連会社職員	5
看護補助者（※）	6	介護福祉士	2	職員家族	5
管理栄養士	8	ソーシャルワーカー	2	職員の友人	9
臨床検査技師	2	事務	6	**合計**	**127**
診療放射線技師	7	秘書	2		
理学療法士	5	専任教員	1		

※インドネシアスタッフ5名も参加。

● 運営スタッフ

（名）

事務	12
看護師	6
理学療法士	2
秘書	1
ソーシャルワーカー	1
救急救命士	1
その他	3
合計	**26**

合計153名の
様々な職種の
皆さんがご参加
くださいました！

御礼

近森会グループ
災害対策！

テーマ1
トイレが使えない、それが一番困る
～近森病院の災害用トイレに迫る～

【第2回】災害用トイレの使い方

How to use

災害用トイレを使ったことはありますか?今回は近森病院に備えてある災害用トイレの使用手順について説明します。

近森病院 6階A病棟 看護師
岡部 瑞穂 おかべ みずほ

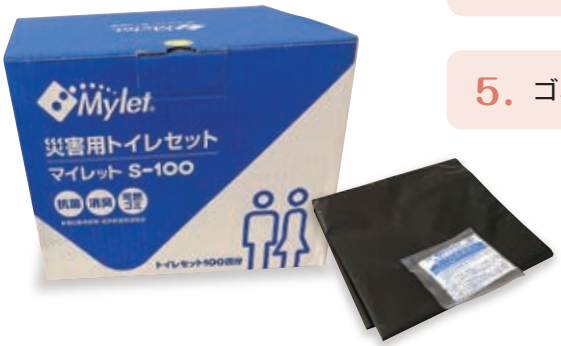
1. トイレの便座に黒い排便袋を被せ、少しくぼみを作りセットします。

2. 用を足します。

3. 白い粉（凝固剤）を入れて固めます。この時、トイレットペーパー、粉の袋や生理用品などのゴミも一緒に入れます。

4. 黒い袋を取り出し、頑丈に2回結びます。

5. ゴミを所定の場所へ捨てます。



災害時の備えとして、ご自宅にある災害用トイレを一度使用してみてはいかがでしょうか?

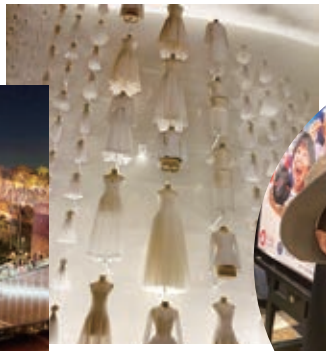
● 次回は、「災害用トイレを身の周りのもので作ってみよう!」をご紹介します!

2025年度 職員旅行

大阪万博＋フリー
1班・2班

2025年6月26・27日
7月24・25日

今年度の職員旅行がスタートしました。遊ぶ時はとことん遊ぶ!皆さん、楽しんできてくださいね!



12ページ「ぷらり旅」の問いの答え：③10℃。真夏でも長袖の上着を用意した方が安心です。

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

熱烈応援 昇格人事

変化への柔軟な対応を

医事支援部 医事課
課長補佐
上甲 浩道 じょうこう ひろみち

この度、課長補佐を拝命し身の引き締まる思いです。

DX推進やAI導入により既存業務に大きな変化が求められています。世の中の変化に柔軟に対応し業務の円滑化・効率化に努め、患者さんをはじめ他部署からもより一層信頼される組織づくりに貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

堅実に成長

近森オルソ
リハビリテーション病院
事務長補佐
大中 崇 おおなか たかし

この度、近森オルソリハビリテーション病院の管理部に配属となりました。

医事課、企画課、地域医療連携センターを経て、新たな業務に携わることとなり、大変重責を感じていますが、少しでも早くお役に立てるよう精進いたします。

我が家の娘たちはすくすくと（自由気ままに）成長し、手に負えませんが、自分自身は謙虚さを忘れず、堅実に成長できるよう頑張ります。

ハッスル研修医

研修医、まだまだ修行中

初期研修医 1年目 **岡村 歩紀** おかむら あゆき

研修が始まって5ヶ月が経ち、「すみません」と「ありがとうございます」ばかり言っていた自分にも、最近ようやく少しずつ成長の兆しが見えてきました。手技や判断にも徐々に慣れてきましたが、まだまだ皆さんに助けられる毎日です。

特に上級医の先生方やコメディカルの皆さんには、どれだけ支えていただいているか計り知れません。相談することの大切さ、そして丁寧に教えてくださることのありがたさを、日々実感しています。

迷ったら聞く、困ったら頼る。そんな姿勢を大切にしながら謙虚に、そしてがむしゃらに努力を重ねていきたいと思います。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

New face
ニューフェイス

❶所属 ❷出身地 ❸最終出身校
❹卒業年次 ❺趣味など

廣瀬 海帆 ひろせ みほ

❶ 救急科医師
❷ 高知県
❸ 高知大学
❹ 2021年
❺ 3ヵ月の幡多地域での研修を終え戻ってきました。勉強してきたことを生かせればと思っています。

歳時記

保育室そると プール遊び

今年の夏も暑かったですね。子どもたちはプール遊びに夢中！残暑が続きますが、暑さに負けず夏を満喫しましょう。

プール、気持ちいいね！

リレーエッセイ

第二のふるさと、高知

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 理学療法士
工藤 航介 くどう こうすけ

私は県外出身者なのですが、高知へ来てもう20年近くになります。これもすべて、高知県の持つ独特の魅力にすっかり心を奪われたからです。

新鮮な海の幸や山の幸に恵まれた食べ物は本当に美味しく、地酒も実に味わい深い。人柄も温かく、優しい方が多くてとても暮らしやすい土地です。自然も豊かで、四季折々の美しさに癒される毎日です。車の運転マナーが良いのも、暮らしていて実感できる高知の素敵な一面です。そして、土佐弁を話す女性の飾らない明るさも素敵です。

私は自然が好きで、休日にはキャンプや登山によく出かけます。高知の山々はどこも表情が豊かで、登るたびに新しい発見があります。

よさこい祭りにも昨年10年ぶりに参加しました。踊り子としてステージに立った瞬間の高揚感、観客と一体になるあの空気感がたまらなく好きです。

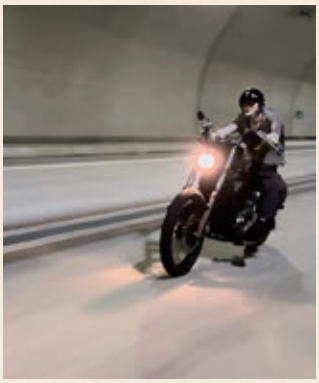
これからもこの温かく豊かな地で、自分らしく心豊かに暮らしていけたらと思っています。

私の趣味

真っ黒ボディの乗り物

近森病院 ER 救急救命士
黒川 義翔 くろかわ ぎが

私は高校生の時に映画「ゴーストライダー」を見て、あの大きな音を出す真っ黒ボディの乗り物に心惹かれました。以来、バイクに乗ることに憧れていました。



社会人2年目になり、自分のバイクを手にしました。それから、出勤時や休みの日、ちょっとした空き時間もバイクにまたがっています。今年の夏は、もうすでに日焼けしてヒリヒリしています。

走行中、虫が口に飛び込んで来ることもありますが、それもまた楽しさの一つだと思います。

バイクに乗っていると同じ趣味を持った人達と仲良くなり、一緒にツーリングに行くことも増え、どんどん人脈も広がっています。山道を通り綺麗な空気を感じ、「あんなところにこんな綺麗な景色あったがや」と人や場所、全て含めて素敵な出会いがあります。バイクは、僕にとってかけがえのない存在です。今後も思いっきり楽しみたいと思います。

FREE 私の〇〇（まるまる）

〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「癒し」

医療福祉部 ソーシャルワーカー
實松 美咲 さねまつ みさき

我が家には、2024年9月に愛媛県からやってきた保護犬のソラがいます。新しい環境に慣れてくれるか心配もありましたが、少しずつ慣れて、今ではすっかり我が家の一員です。

ソラはとっても甘えん坊で私が家に帰ると、しっぽをブンブン振りながら全身で喜びを表現してくれます。その姿を見ると仕事の疲れも吹き飛び、心が温かくなります。

特に私を癒してくれるのは、ソラが「へそ天」でお腹を丸出しにして無防備に寝ている姿です。写真のように丸まって寝ることもありますが、無防備で可愛らしい寝顔を見ていると、思わず笑顔になってしまいます。保護犬だったソラがすくすくと成長し、こんなにも無邪気に、そして安心して過ごしている姿を見られることは、私たち家族にとって何よりの喜びであり、日々の「プチ贅沢」となっています。

これからも、ソラとの毎日を大切に、たくさんの思い出を作っていきたいと思っています。

近森相談役の ぶらり旅

ユネスコ 世界文化遺産 佐渡金山

9月、新潟港からジェットフォイルでぶらりと佐渡金山に行ってきました。慶長8年（1603年）に徳川幕府の天領として佐渡奉行所が置かれ、金脈を追い求めて掘り進めた坑道は約400km（佐渡～東京間）に達しています。

ちなみに、東西3,000m、南北600m、深さ800mに広がる坑道の温度は年間を通して一定ですが何度前後でしょうか？

（① 0℃ ② 5℃ ③ 10℃ ④ 15℃ ⑤ 20℃）（答えは9ページの下）

◀ **道遊（どうゆう）の割戸（わりと）**
江戸初期の露頭手掘り跡。

水上輪（すいじょうりん） ▶
アルキメデスポンプの原理で地下深くから水を汲み上げ排水していた。

◀ **掛樋（かけどい）・風廻（かぜまわ）し**
水を坑外へ排水する樋と気絶（けたえ）（酸素欠乏）を防ぐため風を送る唐箕（とうみ）（送風機）。

立合（たてあい）（鉱脈のこと） ▶
佐渡金山では石英脈（白立合）の中に金銀が含まれていた。

◀ **寄勝場（よせせりば）**
採掘した鉱石を細かく砕いて金や銀を選鉱する工場。「ねこ流し」にかけ木綿に付着した金銀を回収する。

看護学校通信

母校に帰る、学校開放デー

近森病院附属看護学校 専任教員 **松浦 美樹**（まつうら みき）

6月より、毎月第1金曜日に卒業生が母校に帰り近況を語り合う「母校に帰る、学校開放デー」を開催しています。第2回目の7月は11名の参加があり、パンやお菓子を手にお互いの近況を報告し合いました。

参加した卒業生は看護師として成長した姿を見せつつ、少し弱音も吐きながら、終盤には学生時代に見せた表情に戻っているように感じました。

教職員一同、卒業生の笑顔を見ることができ本当に心が温かくなりました。卒業生の皆さん、「ちょっと顔を出すだけ」でも大歓迎です。ぜひ、学校に立ち寄ってみてください。お待ちしております。

編集室通信

裏表紙の人物ルポの担当になって1年。20代～50代と幅広い年代&様々な職種の職員の話を聞いてきた。人は誰もが、自分だけの物語を持っている。それに触れるたび、心がじんわり動きます。90分の取材時間は毎回あっという間です。　彬

診療数

2025年7月

―― 電子カルテ管理課 ――

● 近森会グループ

外来患者数	17,992人
新入院患者数	1,108人
退院患者数	1,114人

● 近森病院（急性期）

平均在院日数	12.14日
地域医療支援病院 紹介率	96.85%
地域医療支援病院 逆紹介率	312.99%
救急車搬入件数	562件
うち入院件数	313件
手術件数	569件
うち手術室実施	343件
うち全身麻酔件数	244件

人物ルポ Reportage
Vol.397

答えは現場が教えてくれる

松木宏行
Hiroyuki Matsugi

財務部 施設設備課 主任
日本DMAT隊員

聞き手／ひろっぱ編集部

“困った時の松木さん”

施設設備課の松木主任は、高知出身。福岡の大学へ進学し、卒業後高知に戻り近森会に就職。以来、勤続20年を超える。「父の勧めもあり、とりあえず面接を受けてみました。長く続いているのは、人に恵まれたから」と、一見寡黙そうな松木主任が、滑らかに話しだす。

資材の調達から段取り、はたまた、トラブルの際には手際よく、根気よく解決してくれる施設設備の要（かなめ）。全職種の職員がお世話になっていると言っても過言ではない。

DMAT隊員として初出動

施設設備課の仕事は幅広い。椅子一つから建物まで。

「仕事で大切にしていることは、現場に行くこと。実際に見て触って気づくことで、自分も学ぶし、相手も理解できる」と現場主義にこだわる。ただし、役職が付いたことで「今は後輩を育てることが使命。まあ、人それぞれに考え方や上達法があるので、おいおいに…」と、控えめな発言にとどめた。

松木主任は日本DMAT（※）隊員でもあり、2024年1月の能登半島地震の際に初出動した。その時に一緒に派遣された隊員に話を聞いたところ、「ものすごい活躍ぶりで、他院の医師からヘッドハンティングされていた」そうだ。「たまたま設備に詳しかったので力になれただけ。近森病院で日頃やっていることが活かされただけですよ」と謙遜。

※DMAT…災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）の略称。大規模災害などで活動できる、専門的な訓練を受けた医療チームのこと。

派遣された病院では、環境を確認し、倒壊がひどい場所への立ち入りを制限、使えない水道やエレベーターをチェックしマーキング、さらに復旧派遣の要請などを行った。手際よい松木主任の働きのおかげで、他のチーム隊員がずいぶん働きやすくなっただろう。その病院では「何でも屋さん」という名前がついたそうだ。

休日は子煩悩パパ

妻と小6（男）、小1（女）、2歳（男）の5人家族。休日は、妻が長男のドッジボール練習に付き添うため、松木主任が下の子2人と過ごすことが多い。「家の近所を、子どもと歌いながら自転車で走り回るのが最近のブーム」なんだとか。昼ごはんもパパッと作る。「アレンジが多いですね。最終的に子どもが食べてくれたらいいんです」と。どんな料理かと問うと「例えば野菜炒めは、子どもが食べやすいように玉ねぎや人参だけはバターと砂糖で炒めて、他の食材と合わす」など…。ひと手間の優しさを加えるのが松木パパなのである。

バイクに乗りたい、いじりたい!

実はかなりのバイク好き。10代の頃からサーキットに通い、当時乗っていたバイクは自分で改造。バイクの販売を行うレッドバロンへの内定が決まっていたほど。「今は持ってないですが、いつかは乗りたいですね。やはり昔のバイクに魅力を感じます。“いじりがい”があるんですよ。例えばキャブレターが…」とバイク談義へ。さらにバイクいじりの話から派生した工具（数千円のドライバーがなぜ良いか、など）について熱く語る時の目の輝きは違った。

今年のお正月、実家にてご両親と。右端は、父親の元リハビリテーション統括部長 松木秀行氏。「小学生の時、塾の帰りに近森リハビリテーション病院へ行き受付で父親を呼んで、安兵衛へ餃子を食べに行ってました」と懐かしむ。

流儀は“型にはめないこと”

料理店では、カウンターに座り職人の手さばきを見て、家で真似る。ポットが壊れていたら分解して修理に挑戦。また、“近森病院の多職種の方の話を聞いて学ぶことがおもしろい”とも。

皆に頼られる解決力の高さの根底には、日頃の観察力や探求心の積み重ねがあった。そこに持ち前の器用さが加われば、鬼に金棒である。

「現場によって正解は違います。型を決めて現場に向かうと配慮に欠ける気がするんです。現場の声があって答えがある。その要望＝正解に近い形で、手際よく迷惑かけずにいけたらいいな」と締めくくってくれた。

直接医療には関わらずとも、トライ&エラーを繰り返しながら医療を支える人がいる。やはり近森病院には魅力的な人がたくさんいる。

CHIKAMORI
社会医療法人 近森会　院内広報誌 ひろっぱ 9月号 Vol.470
発行日　2025年8月25日　発行者：近森 正幸／事務局：寺田 文彦
高知市大川筋一丁目1-16　TEL.088-822-5231
https://www.chikamori.com/